



Title	尾瀬産維管束植物相とその再検討
Author(s)	大森, 威宏; Ohmori, Takehiro; 黒沢, 高秀 他
Description	電子資料追加
Citation	低温科学, 80, 175-197
Issue Date	2022-03-31
DOI	https://doi.org/10.14943/lowtemsci.80.175
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/85003
Type	departmental bulletin paper
File Information	12_p175-197_LT80.pdf, 本文



尾瀬産維管束植物相とその再検討

大森 威宏¹⁾, 黒沢 高秀²⁾, 志賀 隆³⁾, 薄葉 満⁴⁾, 根本 秀一⁵⁾,
吉井 広始⁶⁾, 海老原 淳⁷⁾, 田中 徳久⁸⁾, 天野 誠⁹⁾

2021年10月29日受付, 2022年1月27日受理

標本にもとづく尾瀬の自生維管束植物は, 893種類(834種7亜種34変種18雑種)であった。このうち, 31種類は環境省により絶滅危惧種に指定されており, 群馬県, 福島県, 新潟県により指定されているものも含めると, 絶滅危惧種は160種類に達する。尾瀬の植物相は日本海要素を多く含むことに特徴がある。一方で尾瀬には, 隔離分布種する稀産種も多い。尾瀬固有の分類群(種・亜種・変種)はキンポウゲ科のオゼキンポウゲ *Ranunculus subcorymbosus* var. *ozensis* のみで, オゼヌマアザミなど数種は尾瀬とその周辺のみ分布が限られる準固有種である。尾瀬の帰化植物は25種類で, 他に平地性植物の侵入も報告されている。

Vascular plant flora of Oze, Japan and its revision

Takehiro Ohmori¹⁾, Takahide Kurosawa²⁾, Takashi Shiga³⁾, Mitsuru Usuba⁴⁾, Shuichi Nemoto⁵⁾,
Hiroshi Yoshii⁶⁾, Atsushi Ebihara⁷⁾, Norihisa Tanaka⁸⁾, Makoto Amano⁹⁾

Based on a survey of herbarium specimens, 893 taxa (834 species, seven subspecies, 34 varieties, and 18 hybrids) of vascular plants were recorded from Oze. Of these, 31 and 160 taxa are designated as threatened by the Japanese Government and local governments, respectively. The flora of Oze includes many plants classified generically as “Sea of Japan Elements”, which are distributed in heavy snowfall areas and include many rare plants with disjunct distributions. *Ranunculus subcorymbosus* var. *ozensis* is the only endemic plant distributed in Oze, and 25 naturalized exotic plants have also been reported from the region.

責任著者

大森威宏

連絡先

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1

群馬県立自然史博物館

Tel : 0274-60-1200

e-mail : ohmori@gmnh.pref.gunma.jp

1) 群馬県立自然史博物館

2) 福島大学共生システム理工学類

3) 新潟大学教育学部

4) 福島県いわき市

5) 東京大学大学院理学系研究科附属植物園

6) 群馬県高崎市

7) 国立科学博物館植物研究部

8) 神奈川県立生命の星・地球博物館

9) 千葉県立中央博物館

1 Gunma Museum of Natural History, 1674-1,

Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma, 370-2345, Japan.

2 Faculty of Symbiotic Systems Science, Fukushima University, 1, Kanayagawa, Fukushima, Fukushima, 960-1296, Japan.

3 Faculty of Education, Niigata University, 8050, Nishi-ku-Igarashi-2nomachi, Niigata, Niigata, 950-2181, Japan.

4 Iwaki City, Fukushima, Japan.

5 Botanical Gardens, Graduate School of Science, the University of Tokyo, 3-7-1, Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-0001, Japan.

6 Takasaki City, Gunma, Japan.

7 Department of Botany, National Museum of Nature and Science, 4-1-1, Amakubo, Tsukuba, Ibaraki, 305-0005, Japan.

8 Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, 499, Iryuda, Odawara, Kanagawa, 250-0031, Japan.

9 Natural History and Institute Museum, Chiba, 955-2, Chuoku-Aobacho, Chiba, Chiba, 260-8682, Japan.

キーワード：外来植物, 隔離分布, 固有変種, 絶滅危惧植物, 日本海要素

distinct distribution, endemic variety, Japan sea elements, naturalized foreign plants, threatened plants

1. はじめに

尾瀬における最初の総合的な維管束植物（以下植物と記す）目録は、1950年～1952年に行われた第1次尾瀬総合学術調査のものである（Hara and Mizushima, 1954）。その後もこれを補足する部分的なリストや独自性の高い調査に基づいて目録が作成され続けてきた（たとえば宮前, 1981; Hara, 1982; 国立公園協会, 1982; 河内, 1991; 菊地・須藤, 1991）。しかし、大森・黒沢（2022）は1）これらの目録には必ずしも証拠標本に基づくものではなく、目録記載の根拠となった標本の検索が困難であること、2）目録によって分類群の取り扱いの基準が異なり、かつ過去の引用が不明確なために分類群の集約が困難で、正確な分類群の数がわかりづらいこと、3）目録が作成されて時間が経過し、その間に分類群の取り扱いが変わった植物が存在するという問題がある、と指摘した。

また、1960年代以降の入山者の増加や、2000年以降の尾瀬へのニホンジカの侵入とそれに伴う裸地化や忌避植物の繁茂など、第1次尾瀬総合学術調査以降尾瀬の植物を取り巻く環境の変化もみられる。その結果、コカナダモ、コテングクワガタのような帰化植物やクサイ、タニソバのような人里の植物が相次いで尾瀬で記録されるようになってきた（馬場, 1984; 大須賀ほか, 2007）。分子系統学の発展などを背景とした植物分類学の進歩により、これまで受け入れられてきた植物の分類体系は近年大幅に変化し、また、形態や分布とあわせて個々の植物の分類学的見解も見直され続けてきた（たとえば Fujii et al., 2013）。

今回の調査では、まずデータベース化された標本目録をもつ植物標本庫の標本と、過去の尾瀬総合学術調査の標本が収蔵されている可能性の高い植物標本庫の標本調査を行った。さらに、過去に尾瀬での標本点数が少ない地域、過去の植物目録に記録されながら、証拠標本がみつからなかった植物が多い地域、分類学的に疑問がある種や分子系統学的研究が優先される種が存在する地域を選定して現地調査を行い、標本採集を行った。これらの情報をもとに、過去の植物目録と現時点での和名を照合し、現在受け入れられる分類体系と分類学的取り扱いに基づいて再検討を行った。このうち本稿では調査の結果

判明した尾瀬の植物相の特徴や保全上重要な種（移入種を含む）についての解説を行う。具体的な過去の尾瀬総合学術調査以降の植物目録への追加・変更と疑問種については、大森ほか（2022）に一括して記した。

2. 調査方法

2.1 扱う尾瀬の範囲

尾瀬国立公園のうち、従来から一般に尾瀬と認識された地域は、南西側から時計回りに鳩待峠、至仏山、景鶴山、燧ヶ岳、沼山峠、三平峠、アヤマ平の各稜線及び三条ノ滝に囲まれた範囲に該当する（図1）。これは旧日光国立公園の特別保護地区にほぼ一致し、尾瀬ヶ原と尾瀬沼を中心とした地域と言える。過去の尾瀬総合学術調査の植物目録にみられる産地もこれにほぼ一致している（Hara and Mizushima, 1954; Hara, 1982）。本研究の標本調査では、ラベルにこれらの産地情報があるものと、単に「尾瀬, Oze」と記載されたものを含めて対象とした。

2.2 リストの作成方法

植物リストは標本に基づき作成した。群馬県立自然史博物館（GMNHJ）、福島大学貴重資料保管室植物標本室（FKSE）、千葉県立中央博物館（CBM）、神奈川県立生命の星・地球博物館（KPM）、国立科学博物館（TNS）の維管束植物標本データベースより、尾瀬の範囲内の地名（例えば尾瀬 Oze, 燧 Hiuchi, 山ノ鼻 Yamanohana）を含む尾瀬国立公園の主要地名で検索し、候補となる標本を抽出した。GMNHJ, FKSE, CBM, KPMでは保管されている全標本が基本的にデータベース化されており、TNSでは日本固有種、絶滅危惧種、シダ植物など一部がデータベース化されている。また、東京大学理学系研究科附属植物園（TI）にあった未整理標本のうち、尾瀬で採集された標本を整理し、これらも候補となる標本に加えた。候補となる標本の地名情報を精査し、尾瀬国立公園内の植物に関する仮標本リスト、およびそれに基づく仮植物リストを作成した。

この仮植物リストと Hara and Mizushima（1954）および Hara（1982）を照合し、仮植物リストから抜けている植物の種類について東京大学総合研究博物館および理学系研究科附属植物園（TI）で標本を探索した。また、

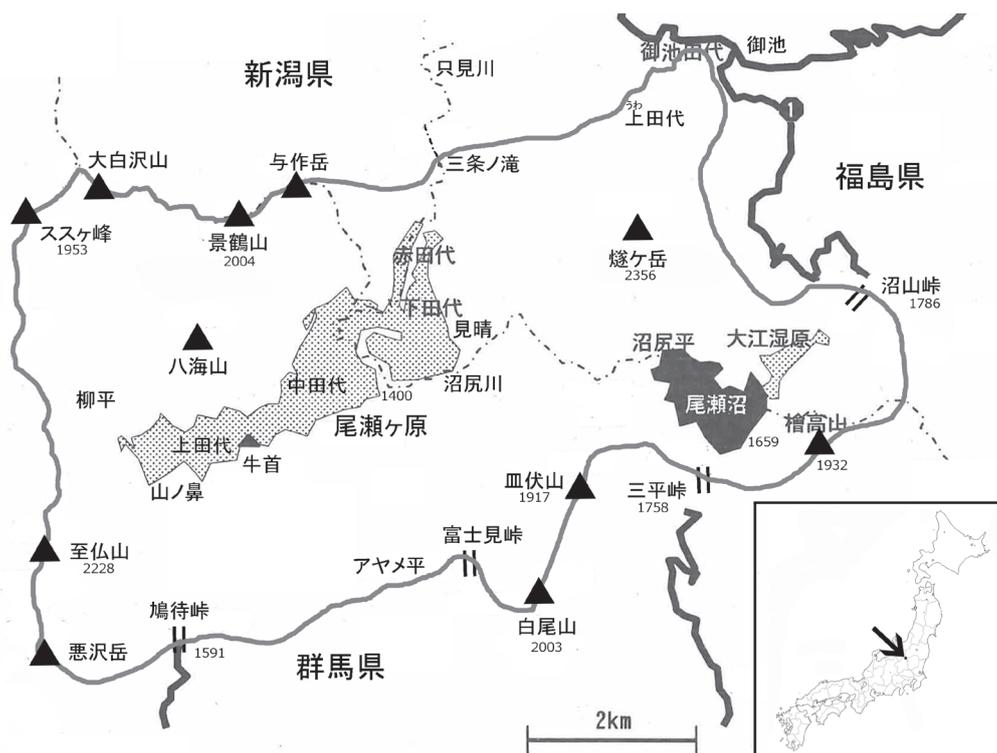


図1：本論文で扱う尾瀬の範囲。灰色の線内を対象地域とした。図は尾瀬の保護と復元（特別号）編集委員会 編（2007）を改変。

尾瀬の植物に関する過去の文献に出てくる植物の種類をまとめ、文献に基づく植物リストを作成した。仮植物リストにあって文献に基づく植物リストに含まれない種類など、同定を確認すべき標本をリストアップし、GMNHJ, FKSE, CBM, KPM, TNSでそれらの標本の同定を再検討した。逆に、文献に基づく植物リストにあって仮植物リストにない種類について、TI, TNS, 東京都立大学牧野標本館 MAK, 東北大学植物園 TUSで標本を探索した。この標本の探索は2020年からの新型コロナウイルス感染拡大を受けて未完了である。

仮標本リストを、標本の探索および同定再検討結果を反映させると共に、現地調査で採集された標本、リスト作成後にGMNHJおよびFKSEで整理された標本、著者等が各自別途行った標本調査の結果も加えて、改訂した仮標本リストを作成した。仮標本リストから、尾瀬の範囲であるものを抽出し、尾瀬の植物標本リストを作成した（以下、標本リスト）。標本リストを作る際には、採集場所が「鳩待峠」「三平峠」など扱う尾瀬の範囲の境界に位置する標本や、単に「尾瀬」「燧ヶ岳」など人によっては範囲外も含む可能性のある標本については、その種類が確実に範囲内の標本があるか、文献で範囲内から報告があるか、多くの標本があるか、その種類が生育するような環境が範囲内にあるかなどを基準に、リストに含めるかどうかを判断した。結果、9,375件からな

る標本リストが作成された。この標本リストに基づき、尾瀬の植物リストを作成した（以下、植物リスト）。前述のように、TI, TNS, MAK, TUSでの標本探索が終わっておらず、植物リストは未完成であり、完成後に改めてリストを公表する予定である。そのため、本稿は植物リスト未完成段階のものであることに留意が必要である。

植物リストを含む本稿における分類群の扱い、和名および学名は海老原（2016, 2017）、大橋ほか 編（2015-2017）に従った。ただし、ササ類は鈴木（1996）に従った。複数の種内分類群が尾瀬で認められるが、混生して区別点とされる形質が連続的であるなど、集団内変異と思われる場合は一つの分類群として扱った。帰化植物かどうかは基本的にYList (<http://ylist.info/>)に従ったが、一般に史前帰化とされている植物（清水, 2003）は在来植物として扱った。また、環境省レッドリスト2020（以下環境省RL2020）（環境省, 2020）、群馬県植物レッドリスト（2018年部分改訂版）（以下群馬県RL2018）（群馬県, 2018）、ふくしまレッドリスト（2019年版）（以下福島県RL2020）（福島県, 2020）、新潟県第2次レッドリスト 植物（維管束植物及びコケ植物）編（以下新潟県RL2014）（新潟県, 2014）に掲載されている種類（ただし、新潟県RL2014で地域個体群とされた植物を除く）を保護上重要な植物、「我が国の生態系等に被害を及ぼ

すおそれのある外来種リスト」(生態系被害防止外来種リスト)(環境省, 農林水産省, 2015)に掲載されている種類を侵略的外来植物とした。角野(2014)に掲載されているものを水生植物とした。

2.3 現地調査

非開花状態で同定が困難な状態の水生植物や, 過去の誤同定が多いホシクサ科が大量に生育する尾瀬ヶ原の池塘及びその周辺で2017年8月27日~29日に採集を行った。また, 2018年8月16日~18日には過去の標本の同定に混乱がみられた尾瀬沼と周辺の湿原群と標本点数が少ない燧ヶ岳, 三平峠で採集を行った。2019年は, 標本点数の少ない地域及び過去の目録に記載がありながら標本が確認できなかった植物が集中する地域で現地調査を行った。6月20日と9月11日には泉水田代から景鶴山麓, 7月26日~27日には尾瀬ヶ原ヨシボリ田代, 下田代と景鶴山麓8月6日に鳩待峠-アヤマ平-三平峠, 8月31日~9月2日には沼山峠-尾瀬ヶ原間と温泉小屋-三条ノ滝-御池間(シボ沢含む), 9月13日には尾瀬沼周辺の湿原で採集を行った。

なお, 福島県と群馬県では今回の調査期間中も県独自の尾瀬保護のための調査が行われており, これらの証拠標本はそれぞれFKSE, GMNHJ, NGU(新潟大学教育学部)に収蔵されたので, その結果は標本調査に反映した。

3. 結果と考察

3.1 植物相の概要

3.1.1 種数と帰化率

今回の標本調査および現地調査により, 栽培植物を除いて尾瀬の範囲から893種類(834種7亜種34変種18

雑種)の維管束植物の生育が確認された(電子資料1.)。帰化植物は25種類で(附表1), 帰化率(帰化植物および逸出種類数÷全種類数)は2.8%となった。Hara and Mizushima(1954)およびHara(1982)の尾瀬の植物リストとの比較は, 大森ほか(2022)を参照のこと。

3.1.2 特殊な生態の植物

尾瀬の植物相の顕著な特徴としては, 食虫植物の種類や量が豊富であることが挙げられる。尾瀬には9種類の食虫植物が生育し, 湿原に生育する種類が顕著で, 特に尾瀬ヶ原には全種類が生育している(表1)。捕虫の方法は, モウセンゴケ科の3種類とタヌキモ科のムシトリスミレが葉の表面にある腺毛から粘着する物質を出して接触した昆虫を貼り付けるタイプで, ヤチコタヌキモなどタヌキモ科の5種類が地面や水中に広げる糸状の葉にある捕虫囊に微生物を吸い込んでとらえるタイプである。

尾瀬に生育する寄生植物については, 完全寄生植物はミヤマハンノキに寄生するハマウツボ科のオニクのみで, 半寄生植物はジャクダン科, オオバヤドリギ科, ハマウツボ科の11種類がある(表2)。このうちヤドリギとホザキヤドリギはブナ林やオオシラビソ林の落葉広葉樹に着生している。シオガマギクなどその他のハマウツボ科の地生の半寄生植物に関しては, 至仏山の草地に多くの種類が見られる。今回の調査で確認されたオニクの標本は1910年に燧ヶ岳で採集されたもののみである。この他, 1924年に館脇操(武田, 1930)が, 1934年~1936年に燧ヶ岳で酒井・酒井(1937a, b)が確認しているが, それ以降は確認されていない。ただし, 明治時代には燧ヶ岳に産する薬草の中に「オニク草」の名があるため, かつては山麓の檜枝岐の人々が認識するほど発生していた可能性が高い(平野・川崎, 1940)。

尾瀬に生育する菌従属栄養植物はツツジ科やラン科な

表1: 尾瀬に生育する食虫植物

科名/種名	捕虫の方法	尾瀬での生育環境	尾瀬での生育場所
モウセンゴケ科			
ナガバノモウセンゴケ	粘りつけ	湿原	白砂湿原*, 大清水平, 沼尻, 尾瀬ヶ原, 外田代
モウセンゴケ	粘りつけ	湿原, 裸地, 岩場	大江湿原, 浅湖湿原, 大清水平, タソガレ田代, 沼尻, アヤマ平, 尾瀬ヶ原, 至仏山
サジバモウセンゴケ	粘りつけ	湿原	白砂湿原, 大清水平, 沼尻, 尾瀬ヶ原, 外田代
タヌキモ科			
ムシトリスミレ	粘りつけ	湿原, 裸地, 岩場	アヤマ平, 尾瀬ヶ原, 至仏山
イスタヌキモ	吸い込み	湿原池塘	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原
ミミカキグサ	吸い込み	湿原	尾瀬ヶ原
ヒメタヌキモ	吸い込み	湖沼, 湿原池塘, 湿原	尾瀬沼, 大清水平, 尾瀬ヶ原, 柳平
ヤチコタヌキモ	吸い込み	湖沼, 湿原池塘, 湿原	尾瀬沼, 浅湖湿原, 大清水平, 沼尻, 八木沢湿原, 尾瀬ヶ原, 柳平, 裏燧湿原群
ムラサキミミカキグサ	吸い込み	湿原	尾瀬ヶ原

* 目視による確認

表 2：尾瀬に生育する寄生植物

科名 / 種名	完全寄生 ・半寄生	寄主植物	尾瀬での 生育環境	尾瀬での生育場所
ビャクダン科 ヤドリギ	半寄生	ケヤキ, エノキ, ミズナラ, ブナ, サクラ, シ ナノキ, ヤナギなど落葉広葉樹 (米倉 2017a)	ブナ林	見晴, 東電尾瀬橋
オオバヤドリギ科 ホザキヤドリギ	半寄生	ミズナラ, クリ, ハンノキなど落葉広葉樹 (米 倉 2017b)	オオシラビソ林	尾瀬沼周辺
ハマウツボ科 オニク	完全寄生	ミヤマハンノキ (藤井 2017)	不明	燧ヶ岳
ホソバコゴメグサ	半寄生		草地	アヤメ平, 至仏山
ミヤマママコナ	半寄生	イネ科, カヤツリグサ科 (清水 1994)	林縁	三条ノ滝
エゾヨツバシオガマ	半寄生		草地	至仏山
ヨツバシオガマ	半寄生		草地	至仏山
オニシオガマ	半寄生		草地	尾瀬ヶ原, 柳平, 御池田代
シオガマギク	半寄生		草地	尾瀬ヶ原, 至仏山
トモエシオガマ	半寄生		草地	治右衛門池, 見晴, 景鶴山, 至仏山
タカネシオガマ	半寄生		草地	至仏山
エゾシオガマ	半寄生		草地	燧ヶ岳, 外田代, 至仏山

ど多数の種類が確認されているが、その多くはベニバナ
イチヤクソウなどのように部分的菌従属栄養植物である。
絶対菌従属栄養植物は、ツツジ科のシャクジョウソ
ウ, ギンリョウソウ, ラン科のトラキチラン, オニノヤ
ガラ, ショウキランの5種類のみである (表 3)。この
5種類の絶対菌従属栄養植物はいずれも林床に生育して
いる。

3. 1. 3 植物区系と日本海要素

尾瀬の植物相の顕著な特徴として、尾瀬固有種・準固
有種および隔離分布種が挙げられる。これらの存在は、
尾瀬の植物相とより北方の植物相との関連や、温暖期の
尾瀬の北方系の種類のリフュジアの役割を示唆するもの
であり、尾瀬の植物地理を考える上で重要である。これ
らの多くは至仏山の蛇紋岩地あるいは尾瀬ヶ原に代表さ
れる湿原に生育している (原・水島, 1954; Hara, 1982)。
これらは大森・黒沢 (2022) で解説しているの、ここ
ではそれらの存在を指摘するにとどめる。

大橋 (1987) による東北地方の植物区系区分に従うと、
尾瀬は日本海区系の範囲に含まれる。実際、大橋 (1987)
が日本海区系を特徴づける日本海要素として挙げた植物
のうち 52 種類が尾瀬で確認されている (附表 2)。一

方で、主に太平洋側を北上する暖地系の種類や、日本海・
太平洋の両側を北上する暖地系の種類は確認されなかつ
た。尾瀬で確認されている日本海要素の過半を占める
37 種類は、亜高山帯の低木林を含む森林で、ブナ林、
オオシラビソ林やその林縁などが主である。次いで湿原
が 10 種類で、岩場 (1 種類)、河岸を含む河川 (2 種類)、
湖岸を含む湖 (1 種類) は少ない。

常緑木本の一部では、種内で樹形が大きく異なり、太
平洋側に直立型、日本海側に匍匐型が分布するものがあり、
後者は多雪環境への適応とされる (Kume et al.,
1998; Kume and Ino, 2001)。尾瀬ではいずれも匍匐型の
ハイイヌガヤ, エゾユズリハ, ハイイヌツゲが生育する。

大橋 (1987) にはほとんど取り上げられていないが、
ササ属も植物区系を特徴付ける植物で、関東地方や東北
地方ではチマキザサ類が日本海側の多雪環境、ミヤコザ
サ類やスズタケ類が太平洋側の少雪環境の指標とされて
いる (Suzuki, 1961; 鈴木, 1978)。尾瀬には多雪環境の
指標であるチマキザサ類のフゲシザサ, クテガワザサ,
チマキザサ, ケザサ, クマイザサ, オゼザサが生育する
一方、ミヤコザサ類やスズタケ類は生育していない。

このように、湿原や至仏山の蛇紋岩地では北方の植物
の影響が見られ、この中には固有種・準固有種や北海道・

表 3：尾瀬に生育する絶対菌従属栄養植物

科名 / 種名	尾瀬での生育環境	尾瀬での生育場所
ツツジ科 シャクジョウソウ	林床	鳩待峠
ギンリョウソウ	林床	燧ヶ岳山麓, 皿伏山, 至仏山, 三条ノ滝
ラン科 トラキチラン	林床	尾瀬ヶ原周辺
オニノヤガラ	林床, 草地	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原
ショウキラン	広葉樹林床	尾瀬ヶ原周辺, 鳩待峠

東北地方北部との隔離分布種を含んでいる。その一方で、亜高山帯の低木林を含む森林や林縁の種類構成は新潟県の山地などと共通な日本海区系としての特徴が強く表れている。尾瀬の植物相はこのような多面的な特徴を持っている。

3.2 保護上重要な種

尾瀬に自生する維管束植物のうち、31種類が環境省 RL2020 で絶滅危惧植物に指定されており、これらを含む48種類がこのレッドリストに掲載されている保護上重要な植物である(附表3)。これは、尾瀬に生育する維管束植物のそれぞれ3.5%および5.4%にあたる。また、160種類が尾瀬を含む各県のレッドリスト、すなわち福島県 RL2019, 群馬県 RL2018, 新潟県 RL2014(ただし、新潟県 RL2014 で地域個体群とされた植物を除く)で絶滅危惧植物に指定されており、209種類が保護上重要な植物である。これは、尾瀬に生育する維管束植物のそれぞれ17.9%および23.4%にあたる。このように、全国の視点、各県の視点のいずれにおいても、尾瀬は極めて多くの絶滅危惧植物あるいは保護上重要な植物が生育している場所であると言える。

尾瀬に生育する維管束植物で、最も絶滅のおそれが高く保護上重要な植物は、環境省 RL2020 で絶滅危惧 IB 類に指定されているトラキチランと考えられる。環境省により2007年に行われた調査でも、全国で11箇所、数百個体しか確認されていない(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015)。針葉樹林の林床に生育する絶対菌従属栄養の多年草で、生育地が元々少ない上に、植生の遷移や登山者の踏みつけなどが要因で減少しているとされる(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015)。発見が困難な植物であることもあり(群馬県環境森林部自然環境課, 2012)、尾瀬でも1952年に標本が採集されて以降、確認されていない。この時観察したと思われる、トラキチランの生育状況や生時の形態が Hara and Mizushima (1954) に記されている。

ヤチランは、環境省により2007年に行われた調査では、全国で7箇所、数百個体しか確認されていない(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015)。尾瀬では沼尻、尾瀬ヶ原、至仏山などのミズゴケ湿原で広く確認されている。植物体が小型であることから発見や個体数の把握は容易ではないが、尾瀬ヶ原などでは生育に適した環境が広い面積にわたることから、比較的多数が生育している可能性があると思われる。

キリガミネアサヒランは確認例の極めて少ない植物であるが、尾瀬では沼尻などで確認されたことがある(里

見, 1951)。サワランとは花が上を向くこと、唇弁は全縁で3裂せず隆起線もないことで区別される(Maekawa, 1935; 遊川, 2015)。しかし、サワランと混生していること(里見, 1951)、唇弁の形態が他の花被片とほぼ同じ形であることから、サワランのペロリア(整齊変態現象)による集団内変異の可能性があると思われ、Suetsugu (2013) でも日本のペロリア化したランの一つとして挙げている。詳細な検討が望まれる。

ハライヌノヒゲはイヌノヒゲに似るが雌花萼外側に長毛を密生するもので(宮本, 2015)、尾瀬と秋田県の1地点のみで知られている(佐竹, 1981)。環境省により2007年に行われた調査では、1箇所50以上100株未満が報告されただけであったために絶滅危惧 IB 類に指定された(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015)。尾瀬では沼尻、尾瀬ヶ原、外田代、裏燧などの湿原に生育し、小集団を作って生育する 경우가多く、人の立ち入りが少ない場所にも多いため(群馬県環境森林部自然環境課, 2012)、比較的多数が生育しているものと思われる。そのため、株数の過小評価により環境省 RL2020 でのレッドリストカテゴリーは過大評価されているものと考えられる。

オクヤマツリスゲは、環境省により2012年に行われた調査で確実な自生地が確認されなかったことなどから絶滅危惧 IA 類に指定されている(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015)。その後尾瀬の他、岩手県北上山地、福島県檜枝岐村、栃木県日光市、岐阜県高山市で生育が確認された(沼宮内, 2017; 大森, 2019a)。特に尾瀬では、景鶴山麓の複合扇状地に5集団100株以上の成熟株、土石流跡地でも多数の若い株が確認されており、本種類の現在確認されている最大級の生育地である。尾瀬の産地は1960年代より立入禁止区域にある上に、ツキノワグマの生息密度が非常に高く、現地での調査は従来困難な場所であったため、発見が遅れたと考えられる。現在、東北南部以南の産地が複数知られ、尾瀬だけで2012年以前に知られた個体数を大幅に上回っているため、環境省レッドリストの評価はリスクを過大評価している。しかし、県単位でみると尾瀬の大集団がある群馬県(絶滅危惧 I B 類相当)を除くと残りは絶滅危惧 I A 類に相当すると考えられる。

ヤマオオウシノケグサは、環境省により2007年に行われた調査では、全国で3箇所、数百個体しか確認されていない(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015)。尾瀬は数少ない生育地の一つである。尾瀬では至仏山塊の2地点に生育し、広い面積に分布しているが分布密度はやや低い(群馬県環境森林部自然環境課,

2012).

ツルケマンは、尾瀬では東電小屋脇の草地に生育が確認され、移入種の可能性もある。本種は亜高山帯の溪流沿いや湧水地の植物で、尾瀬周辺にも自然分布するが、どこでも個体数は数10個体を超えることはない。

尾瀬に生育する保護上重要な植物のうち、尾瀬ヶ原、至仏山、湖岸の湿原や森林を含む尾瀬沼で生育が確認されているものは、それぞれ102種類、83種類、69種類に及び、尾瀬のホットスポット（絶滅危惧植物の集中場所）となっている。この他、燧ヶ岳(40種類)、外田代(27種類)、景鶴山(24種類)、鳩待峠(23種類)、アヤメ平(19種類)などにも保護上重要な植物が多く生育している。

保護上重要な植物の生育環境としては、低木林を含む森林が最も多く72種類で、ブナ林やオオシラビソ林の他に、至仏山や燧ヶ岳の亜高山帯低木林や尾瀬ヶ原の拋水林などが主なものである。次いで尾瀬ヶ原やアヤメ平などの湿原が66種類、至仏山や燧ヶ岳の岩礫地や岩隙などの岩場が25種類、草原・草地が18種類、湖畔を含む尾瀬沼や小沼などの湖沼が15種類、河畔を含む河川が15種類で、これらの環境にも多くの保護上重要な植物が生育している。本州で最大の湿原である尾瀬ヶ原と蛇紋岩という特殊な地質の至仏山があることのほか、このような環境の多様性も、尾瀬に多数の保護上重要な種類が生育している理由であると考えられる。



図2：オゼキンポウゲ（沼尻川，2020年7月2日）。

3.3 固有種・準固有種

過去、尾瀬固有として扱われた植物は多いが（例えば原・水島，1954），今回作成した尾瀬の植物目録の中で、固有と考えられる分類群は尾瀬ヶ原（沼尻川）の拋水林に分布が限られるオゼキンポウゲ（キンポウゲ科：図2）のみとなった。これは、他地域に分布する分類群と同一とみなされるようになったことや、尾瀬周辺の植物分布調査の進展によって他地域でも生育が確認されたことなどによる。なお、オゼキンポウゲはかつて尾瀬に隣接する群馬県の武尊山にも分布すると考えられていたが、武尊山の高次倍数体キンポウゲは現在グンナイキンポウゲとして扱われるようになったため、尾瀬固有となった（戸部ほか，1987；群馬県環境森林部自然環境課，2012）。オゼキンポウゲに関しても、変種であるシコタンキンポウゲに含めるという見解もある（北川，1966）。

ユキイヌノヒゲ *Eriocaulon dimorphoelytrum*（ホシクサ科：図3）は、Koyama（1957）により尾瀬ヶ原の赤田代で記載され（ただし、産地の群馬県は福島県の誤り）、尾瀬の固有種と考えられてきた（佐竹，1981）が、現在はイヌノヒゲとして扱われている（宮本，2015；高田，2017；瀬沼，2021）。ユキイヌノヒゲは尾瀬の中でもミズゴケのマットが発達する湿原や、攪乱地のみから記録されている。また、イヌノヒゲは生育環境が多様でサイズや形態の変化が多様な種である（高田，2017）。これらのことからイヌノヒゲが多雪地の泥炭湿原の環境に適応し、極端に小型化した生態型と考えられる。



図3：ユキイヌノヒゲとされてきたイヌノヒゲ（尾瀬ヶ原赤田代，2014年8月23日）。

尾瀬のほか近隣地域（おおむね三国山脈東部・武尊山～奥鬼怒地域）にしか分布しない植物としてオゼスマアザミ（キク科）、シブツアサツキ（ヒガンバナ科）、クモイイカリソウ（メギ科）、ホソバヒナウスユキソウ（キク科）がある。オゼスマアザミは、低層湿原に生育するアザミで、尾瀬のほか、谷川連峰の東縁や武尊山にも分布する（戸部ほか、1987；吉井ほか、2020）。シブツアサツキ、クモイイカリソウ、ホソバヒナウスユキソウは、尾瀬・至仏山塊と谷川連峰に分布し、蛇紋岩地に特異的に分布する（戸部ほか、1987；菊地・須藤、1991）。シブツアサツキは、『改訂新版 日本の野生植物』（布施、2015）では独立した分類群として認めているが、一方でシロウマアサツキに含める見解もある（原・水島、1954；米倉、2012）。シブツアサツキの分布域はシロウマアサツキの分布範囲内にある（たとえば原・水島、1954；清水 編、2014）。

このほか、至仏山塊と谷川連峰のミヤマアズマギク（キク科）は、変種のジョウシュウアズマギク var. *heterotrichus* として分けられることがある（門田ほか、2017）。尾瀬のフロラを扱う文献では、従来ジョウシュウアズマギクの名称が用いられることが多かったが、近年のDNAを用いた分析によると、ジョウシュウアズマギクは、ミヤマアズマギクの1系統であるとされる（Kawase et al. 2007）。オゼタイゲキ（オゼスマタイゲキ）*Euphorbia togakusensis* var. *ozense* は尾瀬ヶ原でハクサンタイゲキの変種として記載され（Hurusawa, 1947）、その後武尊山に属する湿原からも記録された（戸部ほか、1987）が、現在はハクサンタイゲキのシノニムとして扱われている（Kurosawa, 1999）。

3.4 隔離分布種

尾瀬の植物相は、緯度や標高のわりに、北方系の種や高山植物の占める割合が高い点に特徴付けられる。これらの中で、特にナガバノモウセンゴケやネムロコウホネ（変種のオゼコウホネを含む）、ヒメミズトンボ（オゼノサワトンボ）などのように、北海道に分布するが本州では尾瀬が唯一、あるいは東北地方でもごく稀に生育するだけの種類も存在する（原・水島、1954）。北方系の種や高山植物の多くは尾瀬やその周辺を南限とするが、タカネトウチソウのように、東北地方で分布を欠き、尾瀬のほかに本州中部の高山に分布するものもある（原・水島、1954）。尾瀬の隔離分布種には次のようなものがある。

3.4.1 尾瀬を南限とし、本州には尾瀬以外に分布しな

いか東北地方北部のみに分布する植物

ヒロハオゼスマスゲ、ナガバノモウセンゴケ（とモウセンゴケの種間雑種のサジバモウセンゴケ）はそれぞれ尾瀬が本州唯一の生育地である（原・水島、1954；勝山、2005；清水 編、2014）。また、ヒメミズトンボ（オゼノサワトンボ）は、北海道と本州最北端以外では、尾瀬のみに分布する。

3.4.2 北海道のごく限られた地点に分布し、本州では尾瀬と隣接地域にしか分布しない植物

オゼソウ（北海道天塩山地、尾瀬、谷川連峰）がその例である（原・水島、1954；大橋、2015）。なお、オゼソウは、かつてユリ科に含められていたが、現在の分類では、2属3種のみからなるサクライソウ目のサクライソウ科に含められている（米倉、2019）

3.4.3 東北・北海道の限られた地点に分布し、尾瀬や近隣地域を南限とする種

オゼコウホネは本州では尾瀬以外に月山に分布し、基準変種のネムロコウホネは尾瀬の他に八幡平と栗駒山から知られている。オゼコウホネは、ネムロコウホネに比べて柱頭盤が赤く、その変種として扱われる。また、オゼコウホネには子房や果実が赤く着色する品種のウリュウコウホネ f. *rubro-ovaria* があり、これも今回の調査において記録された（志賀ほか、2018）。コウホネ属では柱頭盤が赤く着色する変異は広く知られており、それらは変種や品種レベルで区別されることが多い。尾瀬はオゼコウホネとネムロコウホネが同所的に生育する特異な場所である。尾瀬ではオゼコウホネは尾瀬ヶ原の池漕に広く分布するのに対し、ネムロコウホネは1池漕のみで確認されているに過ぎない（大森、2014）。尾瀬のオゼコウホネとネムロコウホネの遺伝的変異の差異・程度や集団内変異か否かは興味を持たれる。

カトウハコベは、本州では早池峰山、至仏山塊、谷川山系の蛇紋岩地に限って分布する（清水 編、2014）。タカネハリスゲは、本州では山頂域にミズゴケ湿原がある吾妻山、尾瀬、苗場山に分布し（勝山、2005）、尾瀬では尾瀬ヶ原南縁の湿原群（白尾山～至仏山）の標本が見いだされた。湿原性のオオバタチツボスミレは、本州では尾瀬の他に青森県、岩手県、福島県、長野県に稀産するにすぎない（浜、1975）。

3.4.4 本州の限られた地点に分布する種

ハライヌノヒゲは、尾瀬固有とされてきたが、秋田県南部の湿原に分布することが判明している（佐竹、

1981；高田，2017).

3. 4. 5 東北地方に分布を欠き尾瀬周辺と中部地方の高山に分布する種

ヒメツルコケモモと本州では尾瀬と長野県の限られた場所のみに分布する(横内，1997). また，イトキンポウゲも東北地方で分布を欠き，本州では現在尾瀬と奥日光を結ぶ地域の湖沼畔のみに分布する(戸部ほか，1987；杉田，2005；門田，2016). なお，本種の南限は群馬県北部の野反池であったが，1950年代のダム建設により絶滅したと推定される(戸部ほか，1987). クシロホシクサも北海道と尾瀬，野反に分布する植物で，本州のものはノソリホシクサとして扱われてきた(佐竹，1981；Miyamoto，2016).

景鶴山で記録があるキタダケデンダ(ヒメデンダ)は，北海道，南アルプス，八ヶ岳に分布し，東北地方には分布しない(海老原，2016). ヤマオオウシノケグサは本州では，至仏山，八ヶ岳，南アルプスから知られていたが(館岡，1985)，後に白山と戸隠山系でも記録された(白井ほか，1997). タカネトウチソウは，北海道と至仏山塊・谷川山系，北アルプス(白馬山系)と極端な隔離分布をし，東北地方の分布欠落域では近縁種のシロバナトウチソウが分布する(清水 編，2014). 本州では蛇紋岩地に分布が限定される傾向にある. タカネシオガマも至仏山塊・谷川連峰や本州中部の高山に分布域をもち，浅間山系から群馬県以外の関東地方の山岳と東北地方で分布が欠落し，代わりにミヤマシオガマが分布する(清水 編，2014).

3. 4. 6 本州や北海道の限られた地点に分布する植物

ヤチヤナギは，本州では極端な隔離分布を示し，青森県にまとまって分布する以外は，尾瀬と伊勢湾周辺の2つの湿地に分布する(愛知県内に他に2地点知られていたが絶滅)のみである(井波，1978；清水 編，2014；愛知県環境調査センター 編，2020). ヤマムギは尾瀬以外の本州では岩手県，長野県，山梨県のごく限られた地点から記録があり，近年奈良県から記録された(白井ほか，1997；奈良県くらし創造部景観・環境局自然環境課，2016). なお，尾瀬のヤマムギは当初オゼムギ *Elymus osensis* として新種記載されたが，近年記録はなく，絶滅した可能性もある. チシマガリヤスは，本州では蔵王，尾瀬と長野県の蓼科山，霧ヶ峰から記録があるのみである(白井ほか，1997).

なお，チシマウスバスマシレは東北・中部の湿原に隔離的に分布すると考えられていたが，尾瀬周辺でも福島県

駒止湿原，守門岳，谷川連峰，利根川源流部に生育地が現在確認され，尾瀬・越後山脈・奥会津にはまとまった分布域が形成されていると考えられる(浜，1975；池上・石沢，1983；吉井ほか，2002). また，ホソバオゼヌマスは従来本州では青森県以外では，尾瀬と長野県・霧ヶ峰のみに知られていた. しかし，栃木県や岐阜県でも記録され，さらに群馬県や長野県でも新たな産地がみつかったことが判明し，必ずしも著しい隔離分布をする種とは言えなくなった(すげの会，2018).

3. 5 帰化植物，侵略的外来植物，「平地性侵入種」

今回の調査で，尾瀬から25種類の帰化植物が確認され，その中で，生態系被害防止外来種リストに掲載された侵略的外来植物は13種類であった(附表1.). これらの中で，最も尾瀬の生態系に悪影響を与えていると考えられているのは，沈水植物のコカナダモと考えられる. コカナダモは定着すると密集した集団を形成し，在来の水生植物を減少させるなどの悪影響が知られているが(黒沢，2008；自然環境研究センター，2008)，この知見には尾瀬沼での事例が反映されている. 1981年に大江川河口で初めて確認され(星，1982)，その後急速に分布を拡大し，現在は尾瀬沼全域に生育して尾瀬沼で量的に主要な水生植物の一つとなっている(野原，2007). コカナダモについては，生態系への影響把握の観点から，モニタリングが継続的に行われている(例えば野原，2007). この他，沈水植物・抽水植物のオランダガラシも，水温が低く水質の良い水域でも繁茂するため(自然環境研究センター，2008)，尾瀬の生態系への悪影響が懸念される. オランダガラシはこれまでに尾瀬ヶ原の下田代，赤田代などで確認されており(橘ほか，1978)，現在も竜宮周辺で繁茂が見られる(志賀ほか，未発表). この2種については，計画的・組織的な駆除活動や，生態系への影響の軽減策の実施が望まれる. ただし，オランダガラシについては，沈水状態が似ているとされるオオバタネツケバナ(自然環境研究センター，2008)の他，全体的によく似たオクヤマガラシも生育しており，駆除の際は種類をよく確認する必要がある. この他，コンフリーやヒメジョオンなどの湿原への侵入が報告されたことがある(馬場，1976，1986). これらの他は，帰化植物も侵略的外来種も，ほとんどは尾瀬沼東畔や見晴，山ノ鼻，鳩待峠の施設周辺などの，開墾跡地で踏みつけなどの人為的な圧力が強い場所で確認されている.

コテングクワガタは生態系被害防止外来種リストに掲載されていない帰化植物で，湿原などにはほとんど侵入せず主に施設周辺で見られる. しかし，テングクワガ

タと同種の種内分類群であること, 生育地では両者の中間型と思われる個体も確認されることから, 交雑の可能性が心配される(大森, 2019b). 集団遺伝学的研究などによる早急な現状の把握と, もし交雑が生じている場合は対策が求められる.

尾瀬では, 「平地性植物」とされる, 歩道や施設周辺に分布が限られ, 尾瀬より低地の人里に普通に見られる植物が, 尾瀬の生態系への悪影響の観点から注目されてきた. これまで馬場 (1976, 1984), 大須賀ほか (2007) などがそのような植物の目録を作成し, 大須賀ほか (2007) は 44 種類を挙げ, 分布状況や生育状況を記録している. これらの中には, 今回標本が確認されなかったものも多く, 同定について慎重に確認する必要があるものも含まれると思われる. 「平地性植物」の中には, シロツメクサやエゾノギンギシなどの帰化植物の他, クサイやヤブマメ, オオバコなどの在来植物も含まれる. 在来植物については, 移入かどうかの判断は難しく, 過去の文献・標本情報や, 遺伝的性質から慎重に判断する必要があると思われる.

謝辞

この調査の標本閲覧にあたり国立科学博物館 (TNS), 東京大学総合研究博物館及び東京大学大学院理学系附属植物園 (TI), 東京都立大学牧野標本館 (MAK), 東北大学植物標本室 (TUS), 神奈川県立生命の星・地球博物館 (KPM), 千葉県立中央博物館 (CBM) の皆様には閲覧の許可や作業にあたり便宜をいただきました. また, 元国立科学博物館・山下由美氏には標本調査で同定作業等にご協力いただくとともに, ラン科の同定情報をいただきました. また, ホシクサ科植物の一部は秋田市の高田順氏に同定をいただきました. 現地調査及び事後解析にあたり, 東北植物研究会・沢 和浩氏, 福島大学・山之内崇志氏, 新潟大学・加藤 将氏, 東京農業大学・鈴木伸一氏, 群馬県自然環境調査研究会・片野光一氏, 新潟県立燕中等教育学校の間島絵里子氏, 福島県南会津農林事務所・薄葉孝太郎氏, ならびに福島大学・新潟大学の学生の皆様にはご協力いただきました. また, 国立環境研究所・野原精一氏には尾瀬沼の現地調査にあたりボートの借用を許可いただくとともに, 尾瀬沼のガマとショウブの過去の生育状況について情報をいただきました. さらに現地調査において, 環境省, 林野庁関東森林管理局南会津支署, 東京電力ホールディングス株式会社, 群馬県, 福島県, 新潟県, 公益財団法人尾瀬保護財団, 東京パワーテクノロジー株式会社の皆様の許可と協力を

いただきました.

本調査研究は, 第4次尾瀬総合学術調査 (FY2017-2019) の一環として, 環境省の生物多様性保全推進支援事業費によって行われた. ここに感謝の意を表します.

引用文献

- 愛知県環境調査センター 編 (2020) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 一植物編一. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 馬場 篤 (1976) 尾瀬特別保護地域に侵入した平地性植物. 尾瀬の保護と復元, **7**, 17-18.
- 馬場 篤 (1984) 尾瀬特別保護地区に侵入した平地性植物の分布とその変遷. 尾瀬の保護と復元, **15**, 29-33.
- 馬場 篤 (1986) 湿原に侵入した帰化植物. 尾瀬の保護と復元, **17**, 25-26.
- 海老原 淳 (2016) 日本産シダ植物標準図鑑 I. 学研プラス, 東京.
- 海老原 淳 (2017) 日本産シダ植物標準図鑑 II. 学研プラス, 東京.
- Fujii, N., K. Ueda, Y. Watano and T. Shimizu (2013) Taxonomic Revival of *Pedicularis japonica* from *P. chamissonis* (Orobanchaceae). *Acta Phytotax. Geobot.*, **63**, 87-97.
- 福島県 (2020) ふくしまレッドリスト (2019 年版). (<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/380266.pdf>, 2020 年 7 月 30 日確認)
- 布施静香 (2015) ヒガンバナ科. 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科 (大橋広好ほか編): 240-245. 平凡社, 東京.
- 群馬県 (2018) 群馬県植物レッドリスト (2018 年部分改訂版). (<https://www.pref.gunma.jp/contents/100071278.pdf>, 2021 年 9 月 26 日確認)
- 群馬県環境森林部自然環境課 編 (2012) 群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 (群馬県レッドデータブック) 植物編 2012 年改訂版. 群馬県環境森林部自然環境課, 前橋.
- 浜 栄助 (1975) 原色日本のスミレ. 誠文堂新光社, 東京.
- Hara, H. (1982) Vascular plants of the Ozegahara moor and its surrounding district. Ozegahara. In: Hara, H. et al. (eds.), *Ozegahara: Scientific Researches of the Highmoor in Central Japan*: 123-135. Japan Society for the Promotion Science, Tokyo.
- 原 寛, 水島正美 (1954) 尾瀬地方の高等植物フロラ. 尾瀬ヶ原 (総合学術調査団 編): 401-426. 日本学術振興会, 東京.
- Hara, H. and H. Mizushima (1954) List of vascular plants of the Ozegahara Moor and its surrounding districts. In: Scientific Researchers of the Ozegahara Moor (eds.), *Ozegahara*: 428-479. Japan Society for

- the Promotion of Science, Tokyo.
- 平野長英, 川崎隆章 (1940) 尾瀬. 龍星閣, 東京.
- 星 一彰 (1982) 尾瀬沼にコカナダモ侵入. 水草研究会会報, **7**, 1.
- Hurusawa, I. (1947) *Spicilegium plantarum Asiae Orientalis I. Bot. Mag. (Tokyo)*, **60**, 700-714.
- 池上義信, 石沢 進 (1983) 新潟県植物分布資料 (3). 新潟県植物分布図集 第4集, 405-407.
- 井波一雄 (1978) 東海地方におけるヤチヤナギの分布南限相. 北陸の植物, **25**, 260-265.
- 角野康郎 (2014) ネイチャーガイド 日本の水草. 文一総合出版, 東京.
- 門田裕一 (2016) キンボウゲ属. 改訂新版 日本の野生植物 2 イネ科~イラクサ科 (大橋広好ほか 編): 154-162. 平凡社, 東京.
- 門田裕一, 瀬戸口浩彰, 副島顕子, 東馬哲雄, 中田政司, 森田竜義, 米倉浩司 (2017) キク科. 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科 (大橋広好ほか 編): 198-369. 平凡社, 東京.
- 勝山輝男 (2005) ネイチャーガイド 日本のスケ. 文一総合出版, 東京.
- 環境省 (2020) 環境省レッドリスト 2020. (<http://www.env.go.jp/press/files/jp/113667.pdf>, 2020年7月30日確認)
- 環境省, 農林水産省 (2015) 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (生態系被害防止外来種リスト)」 (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>, 2020年7月31日確認)
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編 (2015) レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物 1 (維管束植物). ぎょうせい, 東京.
- Kawase, D., T. Yumoto, K. Hayashi and K. Sato (2007) Molecular phylogenetic analysis of the infraspecific taxa of *Erigeron thunbergii* A. Gray distributed in ultramafic rock sites. *Pl. Sp. Biol.*, **22**, 107-115.
- 河内輝明 (1991) 尾瀬自然ハンドブック. 自由国民社, 東京.
- 菊地慶四郎, 須藤志成幸 (1991) 永遠の尾瀬 自然とその保護. 上毛新聞社, 前橋.
- 北川政夫 (1966) 東亜植物断続録 (22). 植物研究雑誌, **41**, 363-371.
- 国立公園協会 (1982) 尾瀬 自然解説資料. 国立公園協会, 東京.
- Koyama, T. (1957) Novitates ad Eriocaulaceas Asiae orientalis. *J. Jpn. Bot.* **31**, 6-12.
- Kume, A., C. Tanaka, S. Matsumoto, and Y. Ino (1998) Physiological tolerance of *Camellia rusticana* leaves to heavy snowfall environments: the effects of prolonged snow cover on evergreen leaves. *Ecol. Res.*, **13**, 117-124.
- Kume, A. and Y. Ino, Y (2001) Why is *Aucuba japonica* smaller in heavy snowfall areas? A growth simulation of evergreen broad-leaved shrubs based on shoot allometry, critical shoot sizes for flowering and photosynthetic production. *J. Plant Res.*, **114**, 67-74.
- Kurosawa, T. (1999) 23 *Euphorbia* L. Flora of Japan II c (Iwatsuki, K. et al. eds.): 22-30. Kodansha, Tokyo.
- 黒沢高秀 (2008) 水辺の侵略的外来植物問題と駆除の試み. 日本生態学会東北地区会会報, **68**, 47-51.
- Maekawa, F (1935) *Studia Monocotyledonearum Japonicarum* (II). *J. Jpn. Bot.*, **11**, 297-301.
- 宮前俊男 (1981) グリーンブックス 78 尾瀬の自然観察. ニューサイエンス社, 東京.
- 宮本 太 (2015) ホシクサ科. 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科 (大橋広好ほか 編): 280-286. 平凡社, 東京.
- Miyamoto, F. (2016) Eriocaulaceae. Flora of Japan (IV b). (Iwatsuki, K. et al. eds.): 36-45. Kodansha, Tokyo.
- 奈良県くらし創造部景観・環境局 自然環境課 (2016) 大切にしたい奈良県の野生動植物 - 奈良県版レッドデータブック -. 奈良県, 奈良.
- 新潟県 (2014) 新潟県第2次レッドリスト 植物 (維管束植物及びコケ植物) 編. (<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/51026.pdf>, 2021年9月26日確認)
- 野原精一 (2007) 尾瀬沼生態系の20年の変遷と外来種コカナダモの長期モニタリング. 尾瀬の保護と復元, 特別号, 149-158.
- 沼宮内信之 (2017) オクタマツリスゲ (カヤツリグサ科) に見られた赤色を帯びた雄鱗片. 植物研究雑誌, **92**, 50-52.
- 大橋広好 (1987) 東北地方の植物区系について. 植物研究雑誌, **62**, 119-126.
- 大橋広好 (2015) サクライソウ科. 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科 (大橋広好ほか 編): 139-140. 平凡社, 東京.
- 大橋広好, 門田裕一, 木原浩, 邑田仁, 米倉浩司 編 (2015-2017) 改訂新版日本の野生植物 1-5. 平凡社, 東京.
- 大森威宏 (2014) 尾瀬における環境省絶滅危惧植物の分布と生育立地 2 尾瀬ヶ原におけるオゼコウホネ *Nuphar pumilum* (Timm) DC. var. *ozeensis* (Miki) H. Hara (広義) の保全生物学的研究分布 1 分布変化と種子生産について. 尾瀬の自然保護, **36**, 73-76.
- 大森威宏. (2019a) オクタマツリスゲ (カヤツリグサ科) の形態と分布の再検討. 植物研究雑誌, **94**, 165-172.
- 大森威宏 (2019b) 尾瀬の植物分類学的研究 尾瀬のテングクワガタ *Veronica serpyllifolia* L. subsp. *humifusa* (Dicks.) Syme ex Sowerby とコテングクワガタ *Veronica serpyllifolia* L. subsp. *serpyllifolia* の分布と亜種間交雑の可能性 (予報). 尾瀬の自然保護, **41**, 29-32.
- 大森威宏, 生嶋 功 (1988) 尾瀬沼の非結氷期における水生植物の育成状況. 陸水学雑誌, **49**, 279-285.
- 大森威宏, 黒沢高秀 (2022). 1950 ~ 1953年の尾瀬ヶ

- 原総合学術調査研究以後の尾瀬における植物相研究史. 低温科学, **80**, 163-173.
- 大森威宏, 黒沢高秀, 志賀 隆, 薄葉 満, 根本秀一, 吉井広始, 海老原 淳, 田中徳久, 天野 誠 (2022) 尾瀬の維管束植物目録の見直し. 低温科学, **80**, 199-223.
- 大須賀昭雄, 榎村利道, 樋口利雄 (2007) 尾瀬地域に侵入した移入植物とその対策について. 尾瀬の保護と復元, 特別号, 83-94.
- 尾瀬の保護と復元 (特別号) 編集委員会 編 (2007) 社会環境の概要. 尾瀬の保護と復元, 特別号, 10-16.
- 佐竹義輔 (1981) ホシクサ科. 日本の野生植物 草本 I 単子葉植物. (佐竹義輔ほか 編): 75-84. 平凡社, 東京.
- 酒井文子, 酒井忠壽 (1937a) 日光及び尾瀬地方植物採集目録. 野草, **3** (1), 13-16.
- 酒井文子, 酒井忠壽 (1937b) 日光及び尾瀬地方植物採集目録 (六). 野草, **3** (6), 1-6.
- 里見信夫. (1951) 尾瀬にキリガミネアサヒランがある. 植物研究雑誌, **26**, 23.
- 瀬沼賢一 (2021) 尾瀬ヶ原及び横田代におけるホシクサ属植物の分布と生育立地. 水草研究会誌, **111**, 1-12.
- 志賀 隆, 薄葉 満, 山口昌子, 齋藤真香, 黒沢高秀, 大森威宏 (2018) 尾瀬ヶ原におけるコウホネ属植物の繁殖器官の色彩多型とウリュウコウホネ *Nuphar pumila* var. *ozeensis* f. *rubro-ovaria* の分類学的な妥当性について. 水草研究会誌, **107**, 27-32.
- 清水建美 (1994) ママコナ. 週刊朝日百科植物の世界 2: 73-74.
- 清水建美 編: 門田裕一 改訂版監修 (2014) 山溪ハンディ図鑑8 高山に咲く花 増補改訂新版. 山と溪谷社, 東京.
- 清水建美 編 (2003) 日本の帰化植物. 平凡社, 東京.
- 白井伸和, 高橋一臣, 清水建美 (1997) 146. イネ科. 長野県植物誌 (長野県植物誌編纂委員会 編): 1284-1396. 信濃毎日新聞社, 長野.
- 自然環境研究センター (2008) 日本の外来生物. 平凡社, 東京.
- Suetsugu, K. (2013) A peloric form of *Cymbidium nagifolium* (Orchidaceae). *Acta Phytotax. Geobot.*, **64**, 41-43.
- すげの会 (2018) 日本産スゲ属植物分布図集. すげの会, 岡山.
- 杉田勇治 (2003). キンポウゲ科. 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの植物 I, (栃木県自然環境調査研究会植物部会 編): 188-196. 栃木県.
- Suzuki, S. (1961) Ecology of the Bambusaceous genera *Sasa* and *Sasamorpha* in the Kanto and Tohoku districts of Japan, with special reference to their geographical distribution, *Ecological Review*, **15**, 131-147.
- 鈴木貞雄 (1978) 日本タケ科植物総目録. 学習研究社, 東京.
- 鈴木貞雄 (1996) 日本タケ科植物図鑑. 聚海書林, 船橋.
- 橘 ヒサ子, 榎村利道, 樋口利雄 (1978) 尾瀬ヶ原下田代湿原見晴付近におけるヨシの生態調査 (第3報). 尾瀬の保護と復元, **9**, 1-14.
- 高田 順 (2017) ホシクサ属植物ガイド. 自費出版, 秋田.
- 武田久吉 (1930) 尾瀬と鬼怒沼. 梓書房, 東京.
- 館岡亜緒 (1985) 日本産ウシノケグサ属の染色体数. 筑波実験植物園研報, **3**, 13-17.
- 戸部正久, 里見哲夫, 島野好次, 松沢篤郎, 須藤志成幸 (1987) 群馬県自生高等植物目録. 群馬県植物誌 改訂版 (群馬県高等学校教育研究会『群馬県植物誌改訂版』編集委員会 編): 153-393. 群馬県.
- 横内文人 (1997) 55. ツツジ科. 長野県植物誌 (長野県植物誌編纂委員会 編): 565-593. 信濃毎日新聞社, 長野.
- 米倉浩司 (2012) 日本維管束植物目録. 北隆館, 東京.
- 米倉浩司 (2017a) ジャクダン科. 改訂新版日本の野生植物 4 アオイ科~キョウチクトウ科 (大橋広好ほか 編): 75-78. 平凡社, 東京.
- 米倉浩司 (2017b) オオバヤドリギ科. 改訂新版日本の野生植物 4 アオイ科~キョウチクトウ科 (大橋広好ほか 編): 79-80. 平凡社, 東京.
- 米倉浩司 (2019) 新維管束植物分類表. 北隆館, 東京.
- 吉井広始, 片野光一, 鈴木伸一, 大森威宏 (2020) 3. 植物, 朝日岳白毛門山東面及び宝川自然環境保全地域とその周辺 (2年目). 良好な自然環境を有する地域学術調査報告書, **46**, 108-134. 群馬県環境森林部自然環境課.
- 吉井広始, 須藤志成幸, 里見哲夫 (2002) 4. 植物 (1) 植物相. 第二次奥利根地域学術調査報告書. 63-104. 群馬県.
- 遊川知久 (2015) ラン科. 改訂新版日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科 (大橋広好ほか 編): 178-231. 平凡社, 東京.

電子資料

電子資料 1. 尾瀬地域維管束植物仮目録

電子資料は本文 pdf とともに北海道大学学術成果コレクション HUSCAP で閲覧可能.

(<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/journals/index.php?jname=173>)

附表1：尾瀬に生育する帰化植物.

種名 (科名)	生態系被害防止外来種 リストカテゴリー* ¹	生育環境	標本にもとづく確認場所
コカナダモ (トチカガミ科)	総合対策外来種 重点	湖沼	尾瀬沼
コスカグサ (イネ科)	産業管理外来種	施設周辺	尾瀬沼東畔, 見晴
クロコスカグサ (イネ科)	産業管理外来種	施設周辺	尾瀬沼東畔
ハイコスカグサ (イネ科)		園地	鳩待峠
ハルガヤ (イネ科)		施設周辺	見晴
カモガヤ (イネ科)	産業管理外来種	施設周辺	尾瀬沼東畔, 鳩待峠
シラゲガヤ (イネ科)		不明	不明* ³
コイチゴツナギ (イネ科)		施設周辺	山ノ鼻
ナガハグサ (イネ科)		施設周辺, 歩道沿い	尾瀬沼東畔, 山ノ鼻, 小至仏山
ミスジナガハグサ (イネ科)		施設周辺	尾瀬沼東畔
オニウシノケグサ (イネ科)	産業管理外来種	施設周辺	見晴
ムラサキツメクサ (マメ科)		園地	鳩待峠
シロツメクサ (マメ科)		施設周辺	三平下
オランダガラシ (アブラナ科)	総合対策外来種 重点	湿原・湿地	尾瀬ヶ原 (中田代, 下田代, 赤田代)
エゾノギシギシ (タデ科)	総合対策外来種 その他	施設周辺	尾瀬沼東畔, 見晴
ムシトリナデシコ (ナデシコ科)	総合対策外来種 その他	施設周辺	山ノ鼻
コンフリー (ムラサキ科)		園地, 湿地	尾瀬ヶ原 (下田代), 鳩待峠
コテングクワガタ (オオバコ科)		施設周辺, 湿地	尾瀬沼東畔, 三平下, 見晴, 竜宮, 東電小屋, 温泉地区, 山ノ鼻, 鳩待峠
アメリカセンダングサ (キク科)	総合対策外来種 その他	湿原裸地	アヤマ平
ヒメジョオン (キク科)	総合対策外来種 その他	施設周辺, 湿原・湿地	尾瀬ヶ原 (中田代, 八木沢湿原)
ハルジオン (キク科)		施設周辺	山ノ鼻
ブタナ (キク科)		(送電敷の) 草地	鳩待峠
フランスギク (キク科)	総合対策外来種 その他	施設周辺	富士見峠
ナツシロギク (キク科)		施設周辺, 湿原* ²	尾瀬ヶ原 (下田代)
セイヨウタンポポ (キク科)	総合対策外来種 重点	施設周辺, 歩道沿い, 河畔	尾瀬ヶ原 (ヨッピ橋), 山ノ鼻, 景鶴山麓, 至仏山

* 1 総合対策外来種の重点は重点対策外来種, その他はその他の総合対策外来種.

* 2 馬場 (1984) による, 1970 ~ 1980 年代の記録.

* 3 1930 年代の記録.

附表2: 大橋 (1987) が日本海要素として挙げた植物のうち, 尾瀬に生育するもの.
生育環境は目視にもとづく. 生育場所は標本にもとづくが, 一部文献や目視の情報も含めた.

種類名 (科名)	尾瀬の生育環境	尾瀬の生育場所
ハイイヌガヤ (イチイ科)	ブナ林床	富士見峠, 鳩待峠, 三条ノ滝, 燧ヶ岳麓**
タムシバ (モクレン科)	ブナ林	アヤメ平, 至仏山, 燧ヶ岳**, 尾瀬ヶ原周辺**, 三条ノ滝**
ヒロハテンナンショウ (サトイモ科)	ブナ林床	鳩待峠~山ノ鼻, 燧ヶ岳西麓
キンコウカ (キンコウカ科)	湿原	大江湿原, 燧ヶ岳, 沼尻, 治右衛門池, アヤメ平, 尾瀬ヶ原, 外田代, 至仏山
キヌガサソウ (シユロソウ科)	雪渓縁, 林内の沢沿い	沼尻, 燧ヶ岳, 三平峠
ヒオウギアヤメ (アヤメ科)	湿原, 湖岸	尾瀬沼, 燧ヶ岳, 尾瀬ヶ原, 外田代
タテヤマスゲ (カヤツリグサ科)	雪田縁, 湿原周縁	沼尻, アヤメ平, 至仏山, 外田代, 燧ヶ岳**, 鳩待峠**
タヌキラン (カヤツリグサ科)	湿原, 溪畔の草原	尾瀬ヶ原, 鳩待峠, 滝ノ沢
カニツリノガリヤス (イネ科)	雪田, 溪畔の草原	至仏山
ミヤマアブラススキ (イネ科)	溪畔の草原	至仏山, 与作岳
オサバグサ (ケシ科)	亜高山の針葉樹林	燧ヶ岳*
サンカヨウ (メギ科)	広葉樹林	三平峠, 鳩待峠, 至仏山, 猫又川, 景鶴山
キバナイカリソウ (メギ科)	低木林, 草地	尾瀬ヶ原, 三平峠, 至仏山, 猫又川, 外田代
トガクシソウ (メギ科)	広葉樹林	燧ヶ岳, カッパ山, 景鶴山, 三条ノ滝
ミツバノバイカオウレン (キンポウゲ科)	雪田	至仏山
アズマシロカネソウ (キンポウゲ科)	広葉樹林	景鶴山, 外田代
シラネアオイ (キンポウゲ科)	森林, 雪渓縁	鳩待峠, 景鶴山, 三条ノ滝, 至仏山*
マルバマンサク (マンサク科)	低木林, ブナ林	至仏山, 三条ノ滝**
エゾユズリハ (ユズリハ科)	広葉樹林	アヤメ平, 至仏山, 景鶴山, 温泉小屋~三条ノ滝
ノウゴウイチゴ (バラ科)	林縁, 雪食裸地の辺縁	尾瀬沼, 燧ヶ岳, 至仏山
エチゴキジムシロ (バラ科)	低茎の草原, 岩礫地	小至仏山, 至仏山, 景鶴山
ミヤマナラ (ブナ科)	低木林	尾瀬ヶ原, 至仏山
ヒメヤシャブシ (カバノキ科)	低木林	泉水池, 至仏山
ヒメウメバチソウ (ニシキギ科)	雪田, 雪渓縁	燧ヶ岳, 至仏山
クロヅル (ニシキギ科)	林縁, ササ群落	尾瀬沼, 鳩待峠~山ノ鼻, 至仏山, 三平峠*, アヤメ平, 燧ヶ岳麓**, 三条ノ滝**
オオタチツボスミレ (スミレ科)	広葉樹林	尾瀬沼, 燧ヶ岳, 尾瀬ヶ原, 三平峠, 景鶴山麓
スミレサイシン (スミレ科)	広葉樹林	白砂~見晴, 景鶴山, 東電小屋, 燧裏林道
テツカエデ (ムクロジ科)	森林	沼山峠, 尾瀬沼, 尾瀬ヶ原周辺, 皿伏山, 富士見峠, 鳩待峠~山ノ鼻, 鳩待峠~オヤマ沢田代, 温泉小屋付近
ツルシキミ (ミカン科)	広葉樹林	尾瀬ヶ原周辺, 鳩待峠~山ノ鼻, 至仏山
エゾアジサイ (アジサイ科)	林縁	沼山峠, 沼尻, 八木沢, 富士見峠, 鳩待峠
イワナシ (ツツジ科)	岩場, 裸地, 林縁	沼山峠, 尾瀬ヶ原, 三平峠, 富士見峠, 至仏山, 景鶴山
ムラサキヤシオツツジ (ツツジ科)	森林	燧ヶ岳~尾瀬沼, 白砂湿原~ダンゴヤ沢, アヤメ平, 三平峠, 至仏山, 猫又川, 景鶴山

種類名 (科名)	尾瀬の生育環境	尾瀬の生育場所
オオバツツジ (ツツジ科)	亜高山帯の林縁	至仏山
オオコメツツジ (ツツジ科)	低木林	至仏山
マルバウスゴ (ツツジ科)	雪田, 高層湿原周縁	アヤメ平～富士見峠, 至仏山
タテヤマリンドウ (リンドウ科)	湿原	尾瀬沼, 大江湿原～小淵湿原, 燧ヶ岳, 大清水平, 沼尻, 尾瀬ヶ原, アヤメ平, 至仏山, 外田代, 熊沢田代
クロバナヒキオコシ (シソ科)	林縁	燧ヶ岳, 尾瀬ヶ原, 鳩待峠, 景鶴山
タイリンヤマハッカ (シソ科)	森林	尾瀬ヶ原, 景鶴山
オオバミゾホオズキ (ハエドクソウ科)	溪流沿い	大江湿原～小淵湿原, 尾瀬沼, 燧ヶ岳, 尾瀬ヶ原, 鳩待峠, 至仏山, カッパ山, 景鶴山麓
オニシオガマ (ハマウツボ科)	低層湿原	山ノ鼻, 柳平, 御池田代
ハイイヌツゲ (モチノキ科)	森林, 湿原	尾瀬沼, 長沢, 三平峠, 柳平, 外田代, 尾瀬ヶ原*
オクノフウリンウメモドキ (モチノキ科)	森林	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原周辺
ヒメモチ (モチノキ科)	森林	沼山峠, アヤメ平～山ノ鼻, 鳩待峠
アカミノイヌツゲ (モチノキ科)	林縁, 低木林	燧ヶ岳, 富士見峠～アヤメ平, 鳩待峠, 至仏山
イワイチョウ (ミツガシワ科)	雪田, 湿原	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 至仏山, 柳平
チョウジギク (キク科)	湿原, 河岸	尾瀬沼, 燧ヶ岳, 尾瀬ヶ原, 山ノ鼻猫又川, 鳩待峠, 至仏山, 外田代, 与作岳
ヒトツバヨモギ (キク科)	林縁, 草地	燧ヶ岳, 富士見峠～アヤメ平, 至仏山, 景鶴山
サワアザミ (キク科)	林内	景鶴山麓
オオカニコウモリ (キク科)	林内	沼山峠, 尾瀬ヶ原, 鳩待峠**
ケナシヤブデマリ (ガマズミ科)	ブナ林縁, 拋水林	尾瀬ヶ原, 三平峠
マルバゴマキ (ガマズミ科)	林内	景鶴山麓
タニウツギ (スイカズラ科)	攪乱地, 低木林, 林縁	鳩待峠～山ノ鼻, 三平峠

* 目視による.

** Hara and Mizushima (1954) による.

附表3：尾瀬で確認された保護上重要な植物。保護上重要な植物の定義については本文参照。生育環境は目視にもとづく。生育場所は標本にもとづくが、一部文献や目視の情報も含めた。保全のために一部の植物については一部または全部の生育場所を伏せている。

和名 (科名)	尾瀬の生育環境	尾瀬の生育場所	環境省 (2020)	群馬県 (2018)	福島県 (2020)	新潟県 (2014)
ヒメスギラン (ヒカゲノカズラ科)	岩隙・砂礫地	与作岳, 至仏山			VU	
コスギラン (ヒカゲノカズラ科)	岩隙・砂礫地	燧ヶ岳, 至仏山			NT	
ヤチスギラン (ヒカゲノカズラ科)	湿原	アヤマ平, 尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 至仏山, 裏燧湿原群, 大清水平***				VU
スギカズラ (ヒカゲノカズラ科)	低木林・林縁	アヤマ平, 至仏山			NT	VU
ヒメミズニラ (ミズニラ科)	湿原	白砂湿原, 尾瀬ヶ原, アヤマ平***	NT	VU	VU	CR+EN
コケスギラン (イワヒバ科)	雪田	至仏山		NT	DD	
ミズドクサ (トクサ科)	湿原, 湖岸, 河畔	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原				VU
ウサギシダ (ナヨシダ科)	森林	尾瀬沼, 長沢新道, 尾瀬ヶ原, 鳩待峠, 至仏山, 三条ノ滝			NT	VU
タチヒメワラビ (ヒメシダ科)	森林	見晴, 尾瀬ヶ原, 三平峠, 鳩待峠, 山ノ 鼻, 至仏山			NT	
ニッコウシダ (ヒメシダ科)	湿原	大清水平, 尾瀬ヶ原				NT
キタダケデンド (イワデンド科)	岩隙	景鶴山	CR	CR		
カラフトミヤマシダ (メシダ科)	林縁	山ノ鼻～鳩待峠		CR		
オクヤマシダ (オシダ科)	ブナ林	燧ヶ岳, 鳩待峠, 山ノ鼻, 外田代, 温泉 小屋～三条ノ滝, 裏燧林道			NT	CR+EN
ナンタイシダ (オシダ科)	樹林下の岩上	三条ノ滝			NT	VU
ホテイシダ (ウラボシ科)	樹幹	尾瀬ヶ原, 鳩待峠				NT
トウヒ (マツ科)	オオシラビソ林	沼山峠, 尾瀬沼, 燧ヶ岳, 三平峠			NT	
イチイ (イチイ科)	河畔や亜高山帯の 低木林	尾瀬ヶ原, 至仏山, 大江川***			NT	
ジュンサイ (ジュンサイ科)	湖沼, 湿原内池塘	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原				VU
オゼコウホネ (スイレン科)	湖沼, 湿原内池塘	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原	VU	VU	VU	
ネムロコウホネ (スイレン科)	湿原内池塘	尾瀬ヶ原	VU		VU	
ヒツジグサ (スイレン科)	湖沼, 湿原内池塘	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原				VU
ユモトマムシグサ (サトイモ科)	森林	燧ヶ岳, 富士見峠			VU	
コウキクサ (サトイモ科)	湿原, 湧水	尾瀬ヶ原			NT	
ザゼンソウ (サトイモ科)	挾水林	尾瀬ヶ原				VU
ホソバナノシバナ (シバナ科)	湿原	尾瀬ヶ原	VU		VU	
フトヒルムシロ (ヒルムシロ科)	湿原内池塘, 湿原 の川	浅湖湿原, 大江川, 尾瀬ヶ原				NT
エゾヒルムシロ (ヒルムシロ科)	湖沼	尾瀬沼			VU	CR+EN

和名 (科名)	尾瀬の生育環境	尾瀬の生育場所	環境省 (2020)	群馬県 (2018)	福島県 (2020)	新潟県 (2014)
センニンモ (ヒルムシロ科)	湖沼	尾瀬沼			VU	VU
オヒルムシロ (ヒルムシロ科)	湖沼	尾瀬沼, 小沼, 泉水池				VU
ヒロハノエビモ (ヒルムシロ科)	湖沼	尾瀬沼, 泉水池			VU	VU
オゼソウ (サクライソウ科)	雪田	至仏山	VU	VU		VU
クルマバツクバネソウ (シュロソウ科)	広葉樹林	尾瀬沼, 鳩待峠, 至仏山, 段小屋坂***			NT	
ミヤマエンレイソウ (シュロソウ科)	広葉樹林	景鶴山, 段小屋坂**				VU
キバナノアマナ (ユリ科)	河畔林	景鶴山麓, 沼尻川畔**		CR		NT
チシマアマナ (ユリ科)	高山の岩隙	至仏山		NT		
コアニチドリ (ラン科)	湿原, 岩場	尾瀬ヶ原, 至仏山	VU	VU	VU	VU
サイハイラン (ラン科)	森林	景鶴山麓		VU		
ハクサンチドリ (ラン科)	湿原, 雪田	白砂湿原, 尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 至仏山				VU
イチヨウラン (ラン科)	森林内	尾瀬沼, 三平峠, 景鶴山, 三条ノ滝***, 尾瀬ヶ原***		EN	EN	VU
キリガミネアサヒラン (ラン科)	湿原	沼尻	EN	CR	CR	
サワラン (ラン科)	湿原	尾瀬沼, 大清水平, 尾瀬ヶ原, 至仏山, 外田代, 燧ヶ岳北麓***			NT	CR+EN
コイチヨウラン (ラン科)	森林内	尾瀬沼, 治右衛門池, セン沢田代, 尾瀬ヶ 原, 至仏山, 温泉小屋~三条ノ滝				VU
カキラン (ラン科)	湿原	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 景鶴山麓		CR		
トラキチラン (ラン科)	針葉樹林	竜宮付近	EN	CR	CR	
ツリシユスラン (ラン科)	森林 (樹幹上)	尾瀬ヶ原周辺		CR		CR+EN
ヒメヤマウズラ (ラン科)	針葉樹林	至仏山中腹		CR		CR+EN
ヒメミズトンボ (ラン科)	湿原	尾瀬ヶ原	VU	EN		
ヤチラン (ラン科)	湿原	尾瀬ヶ原	EN	CR	EN	
フガクスズムシソウ (ラン科)	森林 (樹幹上)	長沢, 景鶴山麓, 三条ノ滝	VU	CR	EN	CR+EN
シテクモキリ (ラン科)	湿った林縁	尾瀬ヶ原周辺		CR	CR	
ホザキイチヨウラン (ラン科)	草地	至仏山, 三平峠***		EN	EN	VU
コフタバラン (ラン科)	針葉樹林	三条ノ滝			VU	
コケイラン (ラン科)	広葉樹林	三平峠, 鳩待峠, 尾瀬ヶ原周辺, 山ノ鼻		EN	VU	
ミズチドリ (ラン科)	低層湿原	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原		NT		VU
マンシュウヤマサギソウ (ラン科)	湿地縁	尾瀬ヶ原, 至仏山			DD	
トキソウ (ラン科)	湿原	沼尻, 大清水平, アヤマ平, 尾瀬ヶ原, 至仏山, 外田代, カッパ山	NT	VU	NT	CR+EN

和名 (科名)	尾瀬の生育環境	尾瀬の生育場所	環境省 (2020)	群馬県 (2018)	福島県 (2020)	新潟県 (2014)
ヤマトキソウ (ラン科)	風衝地	白尾山			VU	VU
ミヤマトキソウ (ラン科)	湿原, 雪田	尾瀬沼, アヤメ平, 尾瀬ヶ原, 柳平, 熊沢田代, 外田代, カッパ山			NT	
ショウキラン (ラン科)	広葉樹林	長沢, 尾瀬ヶ原, 鳩待峠				VU
カキツバタ (アヤメ科)	湿原	浅湖湿原, 尾瀬ヶ原	NT	NT	VU	VU
シブツアサツキ (ヒガンバナ科)	蛇紋岩地の礫地	至仏山	NT	NT	VU	NT
ギョウジャニンニク (ヒガンバナ科)	湿地林	尾瀬沼, 沼尻, 小沼, 白砂湿原, 尾瀬ヶ原, 至仏山, 柳平				NT
タマミクリ (ガマ科)	池塘, 湿原の河川	尾瀬沼, 白砂湿原, アヤメ平, 横田代, 尾瀬ヶ原, 外田代, 裏燧湿原群	NT	VU	VU	VU
ヒメミクリ (ガマ科)	池塘?	尾瀬ヶ原	VU	VU	EN	VU
クロイヌノヒゲ (ホシクサ科)	湿原の攪乱地	浅湖湿原, 尾瀬沼, 沼尻, 治右衛門池, 尾瀬ヶ原, 泉水池, 外田代, 裏燧湿原群	NT	NT	DD	
イヌノヒゲ (ホシクサ科)	湿原	小沼, 白砂湿原, 尾瀬ヶ原, 泉水池		DD	NT	
ハライヌノヒゲ (ホシクサ科)	湿原	尾瀬沼, 小沼, 尾瀬ヶ原, 裏燧湿原群	EN	VU	EN	
クシロホシクサ (ホシクサ科)	湿原	アヤメ平	VU	NT	EN	
ミタケスゲ (カヤツリグサ科)	湿原	尾瀬沼, 燧ヶ岳, 大清水平, 治右衛門池, 尾瀬ヶ原, 至仏山, 柳平				NT
オクタマツリスゲ (カヤツリグサ科)	広葉樹林	八海山山麓, 景鶴山山麓	CR	EN	EN	
ムジナスゲ (カヤツリグサ科)	湿原	尾瀬ヶ原		EN		
キンチャクスゲ (カヤツリグサ科)	雪溪畔	燧ヶ岳			VU	
トマリスゲ (カヤツリグサ科)	高層湿原	大江湿原, 大清水平, 尾瀬沼, 小沼, 尾瀬ヶ原, 至仏山, 外田代			VU	
ホソバオゼヌマスゲ (カヤツリグサ科)	低層湿原	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 景鶴山麓, 白砂湿原***, 小沼***	NT	VU	VU	
タカネハリスゲ (カヤツリグサ科)	高層湿原, 雪田	アヤメ平, 白尾山, 横田代, 至仏山	NT	VU	VU	VU
オオカサスゲ (カヤツリグサ科)	低層湿原, 河畔	大江湿原, 白砂沢, 尾瀬沼, 治右衛門池, 尾瀬ヶ原				NT
ユキグニハリスゲ (カヤツリグサ科)	湿地林, 湿った草地	燧ヶ岳, 至仏山, 柳平		EN		
ホスゲ (カヤツリグサ科)	雪溪畔, 亜高山の溪畔	燧ヶ岳		EN	NT	
イワスゲ (カヤツリグサ科)	亜高山の岩礫地	燧ヶ岳			VU	
オオカワズスゲ (カヤツリグサ科)	湿原内の攪乱地	尾瀬ヶ原				NT
クモマシバスゲ (カヤツリグサ科)	亜高山の岩礫地や岩隙	至仏山		VU		
ヒロハオゼヌマスゲ (カヤツリグサ科)	低層湿原, 湿原周縁	尾瀬沼, 大清水平, 沼尻, 小沼, 治右衛門池, 白砂湿原, 尾瀬ヶ原, 柳平	NT	NT	EN	
ヌイオスゲ (カヤツリグサ科)	高山の風衝地	至仏山	VU	VU	VU	
オニナルコスゲ (カヤツリグサ科)	低層湿原, 河畔	大江湿原, 尾瀬沼, 小沼, 治右衛門池, 尾瀬ヶ原, 柳平				VU
サギスゲ (カヤツリグサ科)	低層湿原	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 至仏山, 柳平				NT

和名 (科名)	尾瀬の生育環境	尾瀬の生育場所	環境省 (2020)	群馬県 (2018)	福島県 (2020)	新潟県 (2014)
ミカヅキグサ (カヤツリグサ科)	湿原	尾瀬沼, 大清水, 沼尻, 治右衛門池, 尾瀬ヶ原, アヤマ平**, 至仏山**, 外 田代				VU
シズイ (カヤツリグサ科)	湿原内池塘	尾瀬ヶ原, 白砂湿原		EN	VU	NT
タカネクロスゲ (カヤツリグサ科)	雪田	至仏山	VU	VU		VU
ミヤマノガリヤス (イネ科)	高山の砂礫地	至仏山		VU		
オオヒゲガリヤス (イネ科)	雪田	至仏山		EN		
フサガヤ (イネ科)	溪畔	段小屋坂, 尾瀬ヶ原, 景鶴山, 与作岳, 段吉新道, 燧ヶ岳北麓***			VU	
ヤマムギ (イネ科)	草地	山ノ鼻		DD		
ヤマオオウシノケグサ (イネ科)	高山の砂礫地	至仏山	EN	EN		
イブキノモソモ (イネ科)	河畔	尾瀬ヶ原		VU		
ツルケマン (ケシ科)	草地	東電小屋	EN	EN	EN	
コマクサ (ケシ科)	高山の砂礫地	燧ヶ岳		CR	CR	VU
オサバグサ (ケシ科)	オオシラビソ林	燧ヶ岳			VU	VU
クモイイカリソウ (メギ科)	蛇紋岩地の礫地	至仏山	VU	VU		
トガクシソウ (メギ科)	広葉樹林	燧ヶ岳, 至仏山, カツパ山, 景鶴山, 三 条ノ滝	NT	CR	CR	VU
ミョウコウトリカブト (キンポウゲ科)	高茎草原	尾瀬ヶ原, 至仏山	VU	VU	DD	VU
サンリンソウ (キンポウゲ科)	溪畔林, 高茎草原	尾瀬ヶ原, 鳩待峠, 至仏山, 外田代, 与 作岳			VU	
ヤマオダマキ (キンポウゲ科)	林縁, 高茎草原	沼山峠, 尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 三平峠				VU
リュウキンカ (キンポウゲ科)	湿原内流水周辺	尾瀬沼, 沼尻, 尾瀬ヶ原				VU
ミツバノバイカオウレン (キンポウゲ科)	雪田	至仏山			VU	
アズマシロカネソウ (キンポウゲ科)	広葉樹林	景鶴山, 外田代			NT	
シラネアオイ (キンポウゲ科)	森林, 雪溪縁	鳩待峠, 景鶴山, 三条ノ滝, 至仏山**, 柳平***		VU	EN	
バイカモ (キンポウゲ科)	湿原内流水中	白砂湿原, 尾瀬ヶ原			VU	VU
イトキンポウゲ (キンポウゲ科)	湖畔	小沼, 尾瀬沼, 泉水池	NT	VU	VU	CR+EN
オゼキンポウゲ (キンポウゲ科)	挾水林, 湿原内流 水周辺	尾瀬ヶ原, 外田代		EN	DD	
シナノキンバイソウ (キンポウゲ科)	湖岸, 河岸, 湿原 流水周辺, 雪田	大江湿原, 尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 至仏山, 外田代			VU	
ベニバナヤマシャクヤク (ボタン科)	挾水林内	尾瀬ヶ原	VU	CR	CR	CR+EN
ヤシャビシャク (スグリ科)	森林内大木上	燧ヶ岳, 尾瀬ヶ原周辺, 鳩待峠, 景鶴山 麓, 三条ノ滝	NT	VU	NT	VU
アラシグサ (ユキノシタ科)	雪溪畔, 亜高山の 低木林	燧ヶ岳, 至仏山			VU	
マルバネコノメソウ (ユキノシタ科)	溪畔	見晴, 泉水池, 景鶴山				VU

和名 (科名)	尾瀬の生育環境	尾瀬の生育場所	環境省 (2020)	群馬県 (2018)	福島県 (2020)	新潟県 (2014)
クロクモソウ (ユキノシタ科)	溪畔	沼山峠, 燧ヶ岳, 沼尻林道, 鳩待峠～山ノ鼻			VU	
フキユキノシタ (ユキノシタ科)	溪流, 沢	温泉小屋～三条ノ滝		NT	VU	VU
フサモ (アリノトウグサ科)	湖沼	尾瀬沼, 泉水池		EN		
クロバナロウゲ (バラ科)	湿原, 湖沼畔	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 至仏山, 外田代			EN	
キンロバイ (バラ科)	高山の砂礫地	至仏山	VU	EN		VU
シロバナノヘビイチゴ (バラ科)	草地, 林縁, 山小屋	沼山峠, 燧ヶ岳, 尾瀬沼畔			EN	VU
ミヤマダイコンソウ (バラ科)	亜高山の岩隙	アヤマ平, 至仏山, 景鶴山			VU	
カラフトダイコンソウ (バラ科)	路傍, 林縁, 草地	尾瀬沼, 段小屋坂, 尾瀬ヶ原周辺, 三平峠, 鳩待峠, 至仏山, 外田代, 景鶴山			EN	
コキンバイ (バラ科)	広葉樹林	与作岳				VU
イワキンバイ (バラ科)	岩隙	至仏山, 景鶴山				VU
オオタカネバラ (バラ科)	低木林, ササ群落	鳩待峠, 只見川***			VU	
タカネバラ (バラ科)	亜高山帯上部の低木林	尾瀬沼, 至仏山			CR	VU
エゾキイチゴ (バラ科)	砂礫地	燧ヶ岳			NT	
コガネイチゴ (バラ科)	針葉樹林	富士見峠～アヤマ平, 至仏山			EN	
ヒメゴウウイチゴ (バラ科)	沢沿いの樹林, 雪渓縁	燧ヶ岳, 尾瀬ヶ原, 長沢, 鳩待峠, 平滑ノ滝, 三条ノ滝			EN	
ベニバナイチゴ (バラ科)	雪渓縁	燧ヶ岳, ススカガ峰			NT	
ミヤマワレモコウ (バラ科)	湿原	尾瀬沼, 小沼, 治右衛門池, 尾瀬ヶ原, 外田代, 横田代			NT	
タカネナナカマド (バラ科)	亜高山帯上部の低木林	燧ヶ岳			CR	
イワシモツケ (バラ科)	砂礫地, 低木林	尾瀬沼, 至仏山			EN	VU
エゾイラクサ (イラクサ科)	湿地林	尾瀬ヶ原, 景鶴山麓			NT	
ヤチヤナギ (ヤマモモ科)	湿原	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原			NT	
ヒロハノツリバナ (ニシキギ科)	林縁, 広葉樹林	尾瀬沼, 浅湖湿原, 段小屋坂, 三平峠, 鳩待峠～山ノ鼻, 外田代			NT	
クロツリバナ (ニシキギ科)	林縁	燧ヶ岳, 至仏山麓			CR	
ヒメウメバチソウ (ニシキギ科)	雪田, 雪渓縁	燧ヶ岳, 至仏山			VU	
トモエソウ (オトギリソウ科)	湿地, 河畔の草原	尾瀬ヶ原, 至仏山				VU
オクヤマオトギリ (オトギリソウ科)	草原	大江湿原, 尾瀬ヶ原, 至仏山, 与作岳			VU	
キバナノコマノツメ (スミレ科)	草地, 岩隙	尾瀬沼, 至仏山, 外田代			VU	
チシマウスバスミレ (スミレ科)	湿原縁	大清水平, 小沼, 治右衛門池, 燧ヶ岳, 尾瀬沼, 至仏山, 外田代, 与作岳, セン沢田代, 兎田代	VU	VU	NT	VU
オオバタチツボスミレ (スミレ科)	低層湿原	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 鳩待峠, 至仏山麓, 柳平, 三条ノ滝	NT	VU	NT	VU

和名 (科名)	尾瀬の生育環境	尾瀬の生育場所	環境省 (2020)	群馬県 (2018)	福島県 (2020)	新潟県 (2014)
ハクサンタイゲキ (トウダイグサ科)	低層湿原	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原			NT	VU
ヒメアカバナ (アカバナ科)	雪渓縁, 河原	燧ヶ岳, 尾瀬沼, 外田代, 猫又川			VU	
ホソバアカバナ (アカバナ科)	低層湿原	尾瀬ヶ原		EN	VU	
クロビイタヤ (ムクロジ科)	拋水林	尾瀬ヶ原, 景鶴沢	VU	EN [#]	EN	
イワハタザオ (アブラナ科)	高山の砂礫地, 岩 隙	至仏山			VU	
オクヤマガラシ (アブラナ科)	河畔, 溪畔	尾瀬ヶ原			DD	
ハクセンナズナ (アブラナ科)	沢沿いの樹林	三条, 平滑ノ滝		CR	EN	
ホザキヤドリギ (オオバヤドリギ科)	樹上	尾瀬沼, 山ノ鼻***		EN	NT	VU
イブキトラノオ (タデ科)	高茎草原	尾瀬ヶ原, 至仏山			DD	
タカネスイバ (タデ科)	高茎草原, 低層湿 原	尾瀬ヶ原			NT	
ナガバノモウセンゴケ (モウセンゴケ科)	高層湿原	尾瀬沼, 大清水平, 小沼, 尾瀬ヶ原, 外 田代**	VU	VU	VU	VU
カトウハコベ (ナデシコ科)	高山の砂礫地	至仏山	VU	VU		
タカネナデシコ (ナデシコ科)	高山の砂礫地	至仏山			NT	
ヤナギトラノオ (サクラソウ科)	低層湿原	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 外田代			NT	CR+EN
ハクサンコザクラ (サクラソウ科)	雪田	至仏山			NT	
クリンソウ (サクラソウ科)	林内の溪畔	鳩待峠		EN		VU
オオサクラソウ (サクラソウ科)	林内の溪畔, 雪渓 縁	尾瀬ヶ原周辺, 至仏山			DD	VU
ユキワリソウ (サクラソウ科)	岩礫地, 岩隙	尾瀬ヶ原, 至仏山			VU	
イワウメ (イワウメ科)	高山の岩隙	燧ヶ岳		CR	VU	
ヒメイワカガミ (イワウメ科)	岩場	燧ヶ岳, 至仏山, 景鶴山			NT	
イワヒゲ (ツツジ科)	岩場	燧ヶ岳			EN	
アオノツガザクラ (ツツジ科)	雪田	至仏山			NT	
ツガザクラ (ツツジ科)	高山の岩隙	燧ヶ岳			VU	
オオバツツジ (ツツジ科)	亜高山帯の林縁	三平峠***, 至仏山			NT	NT
ヒメツルコケモモ (ツツジ科)	高層湿原	中ノ原, 尾瀬ヶ原***	VU	DD	DD	
マルバウスゴ (ツツジ科)	雪田, 高層湿原の 周縁	アヤマ平~富士見峠, 至仏山			EN	
エゾノヨツバムグラ (アカネ科)	針葉樹林	燧ヶ岳, 至仏山			NT	
オオアカネ (アカネ科)	湿地林	長沢, 山ノ鼻, 景鶴沢			DD	
トウヤクリンドウ (リンドウ科)	高山の岩隙	燧ヶ岳, 至仏山		EN	VU	VU

和名 (科名)	尾瀬の生育環境	尾瀬の生育場所	環境省 (2020)	群馬県 (2018)	福島県 (2020)	新潟県 (2014)
オヤマリンドウ (リンドウ科)	岩場, 草地	燧ヶ岳, 至仏山, アヤメ平***			NT	
テングノコヅチ (リンドウ科)	亜高山帯の針葉樹林	沼山峠, 燧ヶ岳**, 至仏山	NT	VU	VU	NT
シロバナカモメヅル (キョウチクトウ科)	ヨシ湿地, 挾水林 林縁	沼尻, 尾瀬ヶ原, 三平峠, 景鶴山		VU		
エゾムラサキ (ムラサキ科)	湿った草地, 山小 屋周辺	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 三平峠		EN	CR	
タチカメバソウ (ムラサキ科)	挾水林内, 河岸, 溪流, 沢	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 富士見峠, 至仏山麓				NT
ハシリドコロ (ナス科)	広葉樹林	景鶴沢				VU
スギナモ (オオバコ科)	湖沼浅瀬, 河川	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原			CR	
ヤマクワガタ (オオバコ科)	森林内	沼山峠, 大江~浅湖, 小淵湿原, 燧ヶ岳, 段小屋坂, 尾瀬ヶ原, 三平峠, 皿伏山, 富士見, 鳩待峠, 柳平, 裏燧林道			NT	
テングクワガタ (オオバコ科)	林縁, 路傍, 河畔 の草地	三平下, 見晴, 尾瀬ヶ原, 山ノ鼻, 富士 見峠, 鳩待峠, 温泉小屋		EN	EN	VU
ムシトリスミレ (タヌキモ科)	湿原, 岩場	アヤメ平, 至仏山			VU	
イヌタヌキモ (タヌキモ科)	湖沼, 湿原内池塘	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原	NT	VU	NT	VU
ミミカキグサ (タヌキモ科)	湿原	尾瀬ヶ原		CR	VU	VU
ヒメタヌキモ (タヌキモ科)	湿原	尾瀬沼, 大清水平, 尾瀬ヶ原, 柳平	NT	CR	VU	VU
ヤチコタヌキモ (タヌキモ科)	湿原	浅湖湿原, 尾瀬沼, 大清水平, 小沼, 治 右衛門池~タンガレ田代, 小淵沢田代, 尾瀬ヶ原, 外田代, 裏燧湿原群	VU	EN	VU	
ムラサキミミカキグサ (タヌキモ科)	湿原	尾瀬ヶ原, 裏燧湿原群	NT	EN	VU	VU
オニク (ハマウツボ科)	亜高山帯の低木林	燧ヶ岳		CR	VU	VU
オクノフウリンウメモドキ (モチノキ科)	林縁, 湿地	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原			NT	
ミヤマウメモドキ (モチノキ科)	湿地縁	与作岳		CR		
サワギキョウ (キキョウ科)	ヨシ湿地, 湿原	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, アヤメ平, 外田代, 御池田代				VU
ミツガシワ (ミツガシワ科)	湖沼浅瀬, 湿原内 流水	尾瀬沼, 治右衛門池, 白砂湿原**, 尾瀬ヶ 原				VU
チョウジギク (キク科)	湿原, 河岸	尾瀬沼, 燧ヶ岳, 尾瀬ヶ原, 山ノ鼻猫又 川, 鳩待峠, 至仏山, 外田代, 与作岳			NT	
フタマタアザミ (キク科)	溪畔	見晴, 鳩待峠-山ノ鼻			DD	
オゼヌマアザミ (キク科)	ヨシ湿地, 湿原	大江湿原, 尾瀬沼, 治右衛門池, 白砂湿 原***, 尾瀬ヶ原, 八木沢湿原, 至仏山, 裏燧湿原群	VU	NT	VU	
ジョウシュウオニアザミ (キク科)	砂礫地, 林縁	沼山峠, 尾瀬沼, 燧ヶ岳, アヤメ平, 富 士見峠~白尾山, 鳩待峠, 至仏山			NT	
ミヤマアズマギク (キク科)	高山の砂礫地, 岩 隙	至仏山		VU###	DD	
オゼニガナ (キク科)	ミズゴケ湿原	尾瀬ヶ原, 尾瀬沼周辺の湿原群, 至仏山			VU	
ホソバヒナウスユキソウ (キク科)	高山の砂礫地, 岩 隙	至仏山	VU	NT		VU
オオニガナ (キク科)	ヨシ湿地	尾瀬ヶ原, 景鶴山麓		VU	NT	VU

和名 (科名)	尾瀬の生育環境	尾瀬の生育場所	環境省 (2020)	群馬県 (2018)	福島県 (2020)	新潟県 (2014)
シラネアザミ (キク科)	高茎草原	尾瀬ヶ原, 富士見峠～アヤメ平, 至仏山		NT		
レンブクソウ (ガマズミ科)	森林内	景鶴山麓				VU
リンネソウ (スイカズラ科)	ハイマツ林	至仏山		VU	EN	
クロミノウゲイスカグラ (スイカズラ科)	亜高山の低木林, ササ群落	アヤメ平		CR	NT	
アラゲヒョウタンボク (スイカズラ科)	森林内	外田代, 景鶴山			EN	
ハクサンオミナエシ (スイカズラ科)	岩礫地	燧ヶ岳, 至仏山, 富士見峠～アヤメ平, 滝ノ沢, 三条ノ滝			NT	
ミヤマウド (ウコギ科)	森林内	裏燧林道, 燧ヶ岳西麓***, 富士見峠***			VU	
エゾボウフウ (セリ科)	森林内	尾瀬沼, 尾瀬ヶ原, 三平峠, 至仏山			VU	
ヒカゲミツバ (セリ科)	森林内	尾瀬沼			NT	

* 環境省 (2020) は環境省レッドリスト 2020, 群馬県 (2018) は群馬県植物レッドリスト (2018 年部分改訂版), 福島県 (2020) はふくしまレッドリスト (2019 年版), 新潟県 (2014) は新潟県第 2 次レッドリスト 植物 (維管束植物及びコケ植物) 編を示す. 表中のランク略号は以下の通り: CR: 絶滅危惧 IA, EN: 類絶滅危惧 IB 類, CR+EN: 類絶滅危惧 I 類, VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, 情報不足: DD.

** 目視による.

*** Hara and Mizushima (1954) による.

シバタカエデとして評価.

アヤメ平に移植されたものが生育している.

ジョウシュウアズマギクとして評価.